

# 歴史まち歩き

24

## 塩付街道とお地蔵様

【地下鉄御器所駅▶地下鉄桜山駅】



# 遠く信州まで塩を運んだ道 お地蔵さまに見守られて街道の面影をゆく

江戸時代の塩の道、塩付街道。安全を祈って安置された馬頭観音などが見守る道を歩きます。奈良時代の鬼瓦が残る石仏白山社、円空仏を所蔵する善昌寺などを巡ります。

### ① 石仏の地蔵(いしほとけのじぞう)

街道沿いの天神町にさしかかる東側角に、お堂があります。施主の名を冠して玉置地蔵ともいわれています。このあたりは塩付古道があったところで、山神社塚・兒宮社塚・若宮社塚など古墳群がありましたが、今はありません。

### ② 高砂本家本店(たかさごほんけほんてん)

【塩付街道つぶ大福】  
創業明治30年、名古屋市昭和区に本店を構える老舗和菓子店。名物の「塩付街道つぶ大福」の包装紙には、馬子が茶店で休息する様子が描かれています。

### ③ 石仏弘法大師(いしほとけこうぼうたいし)

弘法大師が安置されています。唐国留学前の青年大師像。奥には「社日さま」という神様の社があります。

### ④ 善昌寺(ぜんしょうじ)

曹洞宗のお寺で、ご本尊は釈迦如来です。境内には石仏観音が安置されている慈雲の庵があり、元和元年(1615年)亀甲和尚が、慈雲庵と名づけて住んでいました。数年後、千山和尚がお堂を建てましたが、寺号は服部総一郎善昌の名をとって、慈雲山善昌寺となりました。一時、無住職となりましたが、天明6年(1786年)宝円靈樹和尚によって再興されました。「尾張志」によると、善昌の子が幼少より出家して鑑宗といい、慶長13年(1608年)お堂を建立し、父の名をもって寺号とした、とも記されています。

### ⑤ 石仏白山社(いしほとけはくさんしゃ)

祭神は石仏村の氏神「菊理姫命(きくりひめのみこと)」です。貞享年間(1684~1687年)に服部総一郎善昌が加賀国白山の「山神」を勧請したといわれ、社殿は前方後円墳の後円部に造営されています。古観音庵跡から出土した奈良時代の「布目の鬼瓦」(市文化財)が所蔵され、また、むかし若者の力競べに使われた「力石」も残っています。この辺りは、かつての塩付街道の面影がかなり残っている所です。

### ⑥ 藤成神明社(ふじなりしんめいしゃ)

藤成神社とも呼ばれ、境内には主神の天照大神のほか、境内社として津島・山神・秋葉・白竜・月読・八剣の各社が合祀されています。そのほかに、鬼王神社と伏見稲荷がありますが、鬼王神社は土地の神さまを祀っていて、俗に「おきよさま」といわれています。境内の南には弘法大師・神変大菩薩・石地藏尊・聖観音・庚申像を安置するお堂があり、また、市の保存樹のクスノキ2本が大きな緑を添えています。

### ⑦ みやみち地蔵(みやみちじぞう)

このお地蔵さんは名古屋市立大学病院の東北の角にあり、昔から宮参り往來の道しるべとして、露座していた辻地蔵でしたが、今はお堂が建てられてその中に安置されています。お地蔵さんの両側には「右みやみち、左なるみみち」と記されています。なお、道標も保存されていて、それにも「右あつたみち、左なるみみち」と記されています。

### ⑧ 川澄地蔵(かわすみじぞう)

名古屋市立大学病院東側の塩付街道沿いに、西を向いた「地蔵堂」があります。碑文には「川澄地蔵大菩薩奉安三百年記念寛文7年(1667年)」とあります。堂内には古いお地蔵さんと一緒に「馬頭観音」が安置されていますが、本尊に刻字はありません。馬の安全と商売繁盛を願ったものと思われる。

